

本を選ぶ

- 架け橋となる学校図書館をめざして
- 「謎解き本探しゲーム」
- 笑顔あふれる図書館を一日でも早く
- DMかたろぐ

2022 年 (令和 4 年) 4 月 10 日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL:03-6908-4643

<https://www.las2005.com>

●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

架け橋となる学校図書館をめざして

長沼 祥子

今の仕事をする前、私は公共図書館で児童書担当の仕事をしていました。そのとき感じていたのは、中高生向けサービスのハードルの高さです。

小学生でさえ忙しい昨今、より忙しい中高生が公共図書館に来る機会はかなり限られています。来館しても、勉強目的の場合が多く、じっくり本を選んで読む・借りる中高生はかなり稀です。選書も大変悩ましく、YA 文学に名作は数あれど、あまり読めない印象です。イベント関係も小学生向けがメインで、中高生向けまで手が届かないというのが実状でした。小学生と比べ、中学生は興味関心・触れるメディアなど様々な面で幅が広がっていく時期です。読書をする人・しない人の差がはっきり生まれてくるのもこの時期。そこへ思春期や多様性が加わると、本の選択肢は∞、皆さまも日々悩まれていることかと思います。

そんな自分が高校図書館で働くことになった時、高校生がわざわざ本を読むのかという不安しかありませんでしたが、生徒と接していくうちに、中高生向けサービスに可能性を感じ始めました。

今勤めている高校は、本を読むことが嫌いではなく苦手な生徒が多い印象で、彼らは「自分は本を読めない」と思い込んでいる節があります。その場合は、無理せずマンガやノベライズ本を手渡し、「自分でも読めて楽しめる」経験を手助けしてあげるよ

うにします。反面、高校生になってくるとそれなりに読める生徒もいて、興味を刺激すると思いがけず名作を読んでもくれる場合もあります。例えばライトノベルばかり読む生徒に「ロリータ・コンプレックスの語源になった本だよ」とナボコフの『ロリータ』を紹介したら、即座にリクエストし、授業で紹介するほど読み込んでくれたことがあります。最近では TikTok の本紹介動画の影響で「なぜこれを高校生が!？」という本を読む生徒もいます。

動画クリエイターのけんごさんもおっしゃっていましたが、若者が本を読まないのは知るきっかけが少ないからであり、興味を惹くきっかけさえあれば生徒は読むのです。生徒に読んでほしい分野と生徒が好きなサブカルチャーを組み合わせ、「韓国文学 × K-POP」や「LGBTQ × BL・百合」をテーマにコーナーを作ったり、ボードゲームや「これも学習マンガだ!」を活用したりするなど、工夫次第できっかけは作ることが出来ます。生徒に手伝ってもらい、本の紹介動画を作っても面白いでしょう。世の中には有効なコンテンツがたくさんあるので、それらを自分の学校の生徒に合わせて選び、うまく教育と掛け合わせてプロデュースすることが今司書に求められる役割の1つなのではないかと思っています。

中学・高校図書館で、より図書館の楽しさや便利さに気づくことが出来たら、生徒は卒業後も公共図書館へ足を運ぶかもしれません。そういう意味で、生徒の図書館人生において、中学は岐路、高校は最後の砦なのではないかと思っています。架け橋となる学校図書館を目指し、模索する日々が続きます。

(ながぬま しょうこ：埼玉県立妻沼高等学校司書)

「謎解き本探しゲーム」

星野 千鶴子

なかなかコロナが収まりませんが、その中で令和3年度の学校図書館の取り組みを紹介したいと思います。

◆始まりは…

始まりは国語科の先生の提案です。「謎を解きながら本を探す、ということは出来ますか？」と言うことでした。「5つのヒントで1冊の本を探すゲーム」というイメージを話し合いの中で決め、司書（私）が本を選んでカードを作りました。

ゲームをしようと言うこの学年は昨年、コロナ禍で入学式も校庭で行い、授業は自宅学習、その後、分散登校はしたものの、クラス全体としてはどうなのか、気になっていました。図書館利用のオリエンテーションも、図書館ではなく教室で行ったため、残念ながら毎年行っている分類記号とタイトルから本を探すゲームもできませんでした。そのせいなのか、図書館はこの学年にとって遠い場所になってしまったようです。貸出数も1年生なのに3年生より少なく、教室が別棟にある2年生のほうがしっかりと借りに来るという状況でした。何とか本を手にするために、この学年にも図書館に来て欲しいと思っていました。

「謎解き本探しゲーム」

そんな時、「謎解き本探しゲーム」はこの図書館にピッタリでした。1クラスを6つのグループに、1グループにつき2枚のカードを配り、指定時間内に本を探します。初めてなので、途中で私とジャンケンをして勝ったグループにさらにヒントをあげる、と言うことにしました。カードはこんな感じです。

「オンジャリ・Q・ラウフ著『5000キロ逃げてきたアーメット』（学研プラス）」

この本のヒントは次の5つです。

①外国の話。②表紙は赤いリュックが目印。③タイトルが内容を表しています。④表紙の青が目立

ちます。⑤どこからか逃げてきた？

時間は20分にし、タイマーをかけます。全員で探すか、2枚あるのでグループ内で2つに分かれて探すか、グループごとの作戦です。図書配架図をみたり、書架を端からみたり、いろいろな生徒がいきました。20分たったら、合っているかどうか、の答え合わせをします。各グループ順番にヒントを読んで、見つけた本を見せます。司書が合っているか、違うか答えます。全グループが終わると本を回して全員がヒントと本を手にとります。

初めての試みでしたが、授業の後の振り返りでは「おもしろかった」「またやりたい」「班の人とみんなで探して仲良くなれた」とか「図書館にいろんな本があるのがわかった」「どの棚にどんな本があるのか知ることが出来た」という反応がありました。そして、出題された本を借りたいという生徒もいて「本に親しむ」という目標も達成できました。そして、図書館の図書の配置も体で覚えてくれたと思います。

ただ、難しそうだったのは「モーリス・センダック作『かいじゅうたちのいるところ』（偕成社）」でした。カードのヒントが悪いのかもしれませんが、答え合わせの時に心の中で「この本、知ってるよね。」「有名だよね。」とつぶやいてしまいました。

また、3つのヒントでも本を探してみましたが、ヒントは5つぐらいで探すのがちょうど良いように思いました。

◆2年生になって

この1年生たちが4月に2年生になり、クラス替えて新しい班になった時、子ども読書週間中に「謎解き本探しゲーム」を行いました。図書館の使い方、本の配置などの復習の意味をこめて新しいクイズカードを作り、同じように行ないました。時間は15分にしました。すると、今回の問題は

2分ぐらいで探せる本と探しにくい本という結果が出ました。問題を作る側の問題なのかもしれません。

すぐに見つかった本は「金子 みすず著『わたしと小鳥とすずと』(JULA 出版局)」

ヒントは①詩の本です。②ブルーとグレーの表紙に黄色が効いています。③やさしさがつまっています。④タイトルは「〇〇と〇〇と〇〇と」⑤最初は「海の魚はかわいそう」ではじまります。というものです。

難しかった本は「久保田 香り著「もえぎ草紙」(公文出版)」

ヒントは①平安時代中頃の京の都の話。②桜の花の表紙。③日本の物語。④主人公は12歳の少女。④挿絵の多い本。でした。

このことから、小説などはヒントを作るのが難しいということです。読まなければわからない事は全員が読んでいるわけでは無いのでダメですし、あらすじも難しいという事です。

振り返りを読むと「楽しかった」「もっとやりたい」という感想が多い中、新しいクラスになって班の人と、このゲームを通して仲良くなれた」という意見も多く、本に親しむだけでなく班の人を知ることでもできるようです。思いもかけない効果でした。

生徒たちはヒントからありそうな分類の棚の前に行くようですが、普段、読み物しか手に取らないためか新しい発見があるようです。これを機会にいろいろな種類の本を手にとってもらいたいと思います。

◆2学期をむかえて

そして12月は今回がまとめのような気持ちで、なるべく手に取られないけど、興味を持ってもらえるような本をカードにしました。

「怪盗Xから挑戦状が届きました!!!」で始めて、カードを選んでもらって、今回は10分で探しました。途中の追加のヒントは無し。

すぐに見つかった本は「岡部 敬史 文『くら

べる京都』(東京書籍)」

クイズは①京都にまつわる事柄を「くらべる」ことで新たな魅力を発見する本。②あんかけうどんとタヌキうどん、くらべると何がちがう? ③各項目は写真と解説で4ページ。④横長の本。⑤表紙は写真。です。

難しかった本は「尾形 希莉子著、長谷川 直子著『地理女子が教えるご当地グルメの地理学』(ベレ出版)」

クイズは①タイトルに地理とありますが、地理の棚にはありません。②タイトルにグルメとありますが、料理の棚にはありません。②表紙に日本地図がのっています。③あの食べ物はなぜそこで生まれたのかを解説した本です。④大きさは21cmです。

という問題ですが、私としては④で衣食住の習慣とかの棚、分類記号383の棚に行くと思ったのですが、どのクラスも見つけられませんでした。今度入ってくる1年生のオリエンテーションの時は一言、「こんな本がここにあるよ」ということを先に伝えておきたいと思いました。

◆これからのこと

これでカードが40枚そろったので、先生と3月頃には1人1枚渡して本探しが出来るという事と、今度は自分たちで問題を作ってみるのはどうか、と話しています。

ひとり1枚ですが4人に4枚という感じで、個人差が出たり1人の責任になったりしないように配慮して達成感を味わってもらえるようにと考えています。それからグループで1冊の本を選び、その本に対して5つのヒントを作るということをしてみたいと思います。生徒がどんな本を選ぶのかも楽しみです、どんな問題になるのか、ワクワクしています。そして、その問題を使ってカードを作り、3年になった生徒たちに図書館の中を歩き回って本に親しんでもらえたらと…、先へ先へと希望につながっています。

(ほしの ちづこ：中学校図書館司書)

笑顔あふれる図書館を一日でも早く

中山 延恵

3年目になりました

読書ボランティアとして学校にかかわるようになってから学校図書館に興味を持ち、念願の学校司書になって3年目になります。

1年目は職場としての〈学校〉に戸惑い（職員室の扉をノックもせず開けることに、慣れるまで少し時間がかかりました）、初めての図書館オリエンテーションではオロオロし、蔵書を把握する間もなく始まった調べ学習ではバタバタしてしまい、何もかもが思うようにできず四苦八苦しました。しかしながら、昼休みの開館時にはたくさんの生徒が来館し、本の紹介をしたり、リクエストを受けつけたり、カウンター越しに会話を楽しむことができ、学校図書館に勤務できた喜びをかみしめるといった毎日でした。

2年目、ようやく学校司書生活にも慣れ、蔵書を把握し不足分を選書、発注し補いつつ来るべき調べ学習にむけて準備をしていた矢先に、新型コロナウイルスの襲来により休校、分散登校など予想外のことが起きてしまいました。

ブックリストの活用

その後、徐々に登校は再開されていきましたが、リモート授業が始まったことでタブレットの配布が急激にすすみ、調べ学習はタブレットを中心に教室で行われるようになっていきました。図書館では密になるため、国語の授業の意味調べも辞書を貸し出して各教室で行われるようになりました。昼休みの開館も人数制限のために学年ごとの日替わりでの利用となり、来館する生徒が激減しました。

そこで調べ学習に関しては、図書館の本を利用してもらおうべく、前年度の実績をもとに担当の先生方に積極的に声掛けをしました。また、司書教諭と相談しながら調べ学習の参考になる図書館の本を選び、それらを図書館だよりで紹介してもらい、先生方、生徒へのアプローチに努めました。

生徒については、本の紹介に力を入れ来館を促しました。本屋大賞や直木賞、芥川賞の受賞作をはじめ、映画化・アニメ化された話題の本を廊下側からも見える位置に展示しました。（本校の図書館は廊下側の壁がガラス張りになっており図書館内部が見渡せるのです。）来館した生徒にもいろいろな本を直接すすめて貸出につなげました。中には、すすめた本が「高校入試で出題された！」と喜んで報告してくれた生徒もあり、心の中でガッツポーズをしました。また、生徒のリクエストも積極的に受けつけ司書教諭とも相談しながら可能な限り購入しました。（本校において最近人気なのは、いぬじゅん、知念実希人など）

そのほか、市内各校の学校司書が1人1冊ずつ紹介したブックリストに記載されている本も館内に展示し、貸し出しています。

このブックリストは、これまでにVol.3まで作成されています。ちなみにですが、私が紹介した本は次の三冊です。Vol.1では『いつかすべてが君の力になる 14歳の世渡り術』（梶裕貴著／河出書房新社／2018）、Vol.2では『「空気」を読んでも従わない 生き苦しさからラクになる』（鴻上尚史著／岩波書店／2019）、Vol.3では『ミライの授業 FUTURE LECTURES』（瀧本哲史著／講談社／2016）です。特に、『いつかすべてが君の力になる 14歳の世渡り術』は、著者の大人気声優、梶裕貴氏が表紙になっておりたくさんの生徒が借りていきます。

シークレットブックを企画

さらに、図書委員とともにいくつかの取り組みを行いました。新たな本と出合ってもらえるように中身が見えないようにラッピングし、短い内容紹介カードを貼った〈シークレットブック〉を用意しました。また、図書委員に一人一冊ずつおすすめの本を選んでもらってPOPを作成してもらい、それらの本を一覧にして下足箱のある玄関の壁面

に掲示しました。ほかにも、楽しくて役立つ図書館をアピールするために、図書館クイズも作成してもらいました。くじ引きで0～9の分類ごとに担当を決めて2問ずつ作成し、様々な分類の本を直接手に取ってもらえるように1問は本棚の側面に掲示しました。もう1問は、館外にいる生徒にも楽しんでもらえるよう、廊下に掲示しました。

図書館クイズは司書の私も作成しました。自由読書の時間（たまにしかないのですが……）にどうしても読みたい本が見つからない生徒に取り組んでもらえるように5問を一枚の紙にまとめ、ヒント（請求記号など）をつけました。内容を変え

て10種類ほど作成しました。

このように様々な取り組みを行ってきましたが、急激に来館者が増えたり、調べ学習の本の貸し出しが増えたりはしていないのが現状です。

コロナ禍の終息を願いつつ、他校の取り組みの情報収集を積極的に行いながら、今できる最大限のことを模索していきたいと思っています。

人数制限に縛られず、利用したいときに利用でき、顔を寄せ合いながら熱心に本をのぞき込める笑顔あふれる図書館を、一日でも早くこの目で見られることを願って。

（なかやま のぶえ：中学校司書）